

やませみ 通信

<http://www.okitsu-yamasemi.net/>



(やませみは興津川の清流のシンボルです)

三重県「計画的森林管理の速水林業」の視察研修



三重県の紀北町において、計画的な林業経営を行っている速水林業の経営方針や育成事業について、速水亨代表からお話を聞き、現地を案内していただいた。現地では、速水代表が自ら手を加えた作業機械の説明も受けた。

NO. 39

平成 29 年 3 月

〈平成 29 年度の活動〉

- 4月 市民の森づくり（植樹）
- 5月 総会
- 7月 市民の森づくり下草刈り
川遊び・鮎釣りセミナー
- 8月 川のセミナー
- 9月 興津川クリーン作戦
- 2月 市民の森づくり
サイエンスピクニック

目次

- 1 「市民の森づくり」
～市民の森づくりの1年を
振り返って～
- 3 平成28年度〈総会報告〉
- 4 興津川クリーン作戦と
ゴミ減量の推移
- 5 「川遊び・鮎釣りセミナー」
- 7 「川のセミナー」
- 9 速水林業と清流銚子川
視察レポート
- 11 「サイエンスピクニック
2017」
大分市日田市議団の市民
会議視察

再生紙及びベジタブルインクを使用しています。

興津川保全市民会議会員 増田 実奈子

親子4人で参加して3年目

私たち親子、長男（六年生）、次男（五年生）、長女（三年生）、四人が市民の森づくりに参加して二年が経ち、三年目になります。もともと参加のきっかけは母親である私の山好き、自然好きから始まりました。

年間通して第1回から第3回まで全て参加している私たち。翌日には全身筋肉痛になるほどの急斜面の山道も子どもたちは元気いっぱい歩き、時には走り、澄んだ空気を胸いっぱい吸いながら楽しく登りました。



自然大好きな4人家族です

第1回市民の森づくり

四月・植林と竹の子掘り

整地した山への植樹体験。今年はグループで一本植樹しました。土の話から植え方まで丁寧な説明を受け、心の中で「大きくなってくれ」と願いながら、みんなで汗をいっぱいかきながらひとつになり作業を頑張りました。作業後のお昼ごはんは格別で、たけのこ汁の美味しさは忘れられません。

午後からはたけのこ掘りです。話によれば今年は当たり年?!のようで、たけのこ取り放題です。

これが子どもたちにとって楽しい思い出になりました。掘り方の説明を受け、コツをつかみ、たくさん掘る事が出来ました。



最初に、植林の仕方を教えていただきます



今年は大きめの木を植え、添え木もしました



植える穴を一生懸命掘ります



植林と竹の子掘りはいつも人気で、大勢の参加があります

第2回市民の森づくり 七月・下草刈り

植樹した苗木の周辺を中心に下草刈りです。くわなどの道具の手入れからはじまり、草の刈り方を真剣に聞き、いざ草刈りです。子どもの胸元くらいまで伸びた草を刈っていきます。

実に地味な作業ですが、植樹した木にとって太陽の光を当てることで成長していく、とても大切な作業だと思います。午後からは川遊びです。竹で水鉄砲を作り、大人と子どもの打ち合い合戦は微笑ましい光景でした。



下草刈りに使う鎌の使い方や刃の研ぎ方の説明



植えた木の周りの大きく茂った草を刈取ります



暑い中での作業は大変ですが終わると達成感で一杯！

第3回市民の森づくり 二月・植林地の整地

四月に植樹するための整地作業が済み、手作りジャンボシーソーに乗り、笑い声が山一杯に響き渡るほどの楽しさ。チャンバラごっこもここなら目いっぱい楽しめます。

晴天に恵まれたものの寒空の下での猪鍋は心身とも温まるお昼ご飯でした。食後のスイーツ、焼きマッシュマロも美味しかった…。竹の伐採体験もでき、木材づくりのお手伝いができること、自然の中で遊ぶこと、たくさんの経験が出来ること、感謝しています。

いつか、山の中でブランコをやってみたい…と子どもたちの夢が膨らんでいるようです。



子どもたちは自然の中で遊ぶのが大好きです



自分が植えた木の生長を見るのは嬉しいです



竹とんぼの作り方を教わりました

事業委員 成瀬修一

平成 28 年度興津川保全市民会議の総会ならびに講演会が、平成 28 年 5 月 14 日(土) 14 時から 16 時まで、静岡市役所清水庁舎 3 階第一会議室で開催されました。その概要を報告します。

1. 総会 (14:00 ~ 14:40)

司会の白井久男事業委員による開会の言葉で総会が始まりました。

始めに、山田訓史会長の挨拶がありました。「興津川保全市民会議は昨年 21 周年を迎え、これほど長く続いているのも皆様の支援のおかげです。イベントでも多くの方が参加して下さい、市民の森づくりでは、100 人近い人が参加して盛況でした。また、第 17 回日本水大賞審査部会特別賞を受賞した際には、パワーポイントで発表して、全国に PR ができました。」と話されました。

その後、顧問である、永井彰東海大学名誉教授の紹介があり、顧問代表の挨拶として、静岡市長代理として糟屋真弘市環境局次長から挨拶をいただきました。「昨年度は、次世代の森づくりの事業継続を県知事に要望しました。アユ解禁も近いですが、アユの川として、水質の良さや美しい川を守って行きます。また、市内外から多くの人達が川遊びに訪れているのは、環境がしっかりと保たれているからであり、山がきっちり守られ、川が清く保たれています。興津川保全市民会議の活動が評価されています。さらに、子供達の川遊びなどを通して、人材を育てています。また、熊本震災には、静岡市から応援を派遣し、避難所の支援や、災害廃棄物の運搬にパッカー車を派遣しています」と話されました。

続いて、議事に入りました。平成 27 年度事業報告案ならびに平成 28 年度事業計画案は、望月誠一郎興津川保全市民会議事業委員長が、平成 27 年度収支決算案ならびに平成 28 年度収支計画案は、森口修興津川保全市民会議事務局長からご説明いただき、全議案が質問・異議なく、円滑に承認されました。

2. 講演会 (14:40 ~ 16:00)

「ゼミ学生と実践する水辺の環境教育と環境保全」

東海大学 教養学部 教授 北野 忠 氏

最初に、司会から、講師の北野氏のプロフィールが紹介されました。そして、北野氏から自己紹介がありました。北野氏は静岡県雄踏町の出身で、水族繁殖学が専門です。ゲンゴロウとハゼの生態と保存を研究されています。魚と水生昆虫が大好きだそうです。



川のセミナーで採取した生き物の説明する北野先生

講演の内容を次に記します。水辺の生物を守るには、1. 現状を明らかにする。2. 減少している要因を明らかにして、対応する。3. 多くの人に関心を持ってもらう。

さて、ゲンゴロウはどんな虫かと言うと、甲虫で、カブト虫の仲間です。完全変態するので、幼虫は全く違う姿をしている。流線型の体で、遊泳毛が発達している。カラフルなものが多く、泳ぐ宝石と言われている。世界で約 4,000 種、日本で約 140 種、静岡県には 53 種と多い。ハイバラムカシゲンゴロウ、キタノツブゲンゴロウ、ニセコケシゲンゴロウなど珍しいものもいる。

ゲンゴロウは静岡県では絶滅している。スジゲンゴロウは日本では絶滅している。では、なぜいなくなったのか。1. 開発に伴う池沼の消失。2. 農薬の使用。3. 農地の放棄による水辺の消失や農法の改変。4. 外来生物の侵入。5. 採集圧力、などです。

また、沖縄のゲンゴロウについても話されました。大きい島には種類が多い。水田が多いとゲンゴロウ類の種類が多いなど。

ところで、水田の生物は減っている。タガメ、フチドリゲンゴロウなどは高値で取引されていて、纏めて取られてしまうため、減っている。

次いで、環境保全活動では、ビオトープや人工飼育・放流、外来種の駆除などが必要なこと。環境保全上の問題では、誰がやるのかと活動の継続性、影響の程度と長期的な視野が必要であるが、今やらなければ、確実に居なくなってしまう、と言われた。

最後に、環境教育は、効果が見えにくい。正しい答えがなく、長期に亘るため、自発的に行動できるように、子供から大人まで、自然や生物への理解を深める。子供から大人に働きかける。学生は子供達に教えることで勉強になる。実物を見せる。人間との関わりについて説明する(食料、薬など)などのお話がありました。専門的で、詳しい内容でしたが、分かり易く、かつ大変示唆に富んだお話でした。北野先生ありがとうございました。

興津川保全市民会議事務局

10カ所に1,000人が参加して実施

新涼の候とは言い難いほど、残暑厳しい9月3日に興津川クリーン作戦は行われました。毎年実施しているクリーン作戦ですが、今年も1,000人以上の皆様にご協力いただき実施することができました。西里から河口までに10カ所の清掃ポイントがあり、参加者がそれぞれのポイントに分かれて清掃を行うために、学生から企業、自治会、行政と幅広く参加していただいております。近年ではゴミの量も減り、ゴミを探す方が難しい場所がある程です。

ポイントにより異なるゴミの量

ポイントによってゴミの量は異なり、西里や和田島のようにキャンプ適地として普段から管理されている所は少なく、中流の宮嶋橋など人の手が入らないところには自然とゴミが多くなっていきます。特に多くゴミが出る場所は河口です。河口は上流から流れてきたゴミが一番集まる場所でもあります。また、興津川の河口は海と川がまじりあう場所で、場所も広いので多くの方がバーベキューなどで遊びに来ます。通常のポイントでは45ℓのゴミ袋3～4袋ほど

いに保たれた川に多くの市民が川遊びを楽しみに来ていました。その楽しみの一方で、バーベキューで使った網や飲料のペットボトルを捨てていく人々も少なくありません。稀にですが、テントやベンチが捨てられていることもあります。

こうした活動を継続していく中で感じることは、人の意識を変えるということは非常に時間がかかるということです。興津川保全市民会議では20年以上に渡り活動を継続していますが、これだけの時間をかけてもゴミがなくなることはありません。ただ、開始当初12トン以上あったゴミも620kgまで減るということは、活動により意識が変化しているようにも思えます。川の流れや様子が変わり、昔の興津川とは異なる姿かもしれませんが、これからも多くの人の憩いの場所である興津川を守るため、保全活動を継続していきたいと思っております。



毎年9月の第1土曜日に行われている(和田島地区)

の量ですが、河口では30袋以上のゴミが集まりました。また、ゴミ以外にもタイヤ等の不法投棄もあり、全ポイント中で最もゴミが出ます。

ゴミの量は年々減少し、今年は620kg

しかし、長年の活動と啓発によりゴミの量は減少傾向にあり、今年のゴミ回収量は可燃と不燃合わせて620kgと近年では最も少ない回収量でした。今年は雨が非常に少なく、興津川の水量も例年に比べて少ない様子でしたが、きれ



西里地区



土地区



茂野島地区



興津川漁協下地区



梨の木地区



最も多い河口地区

参加者 毛利 能之

平成28年7月30日（土）、夏休みに入っ
すぐの土曜日に「川遊び・鮎釣りセミナー」に息
子と参加させていただきました。去年から二回
目の参加です。

鮎釣り会場へ

去年の経験もあり、楽しいことはわかりき
っているので小学二年生の息子も大はしゃぎ。静
岡市役所の清水庁舎から興津川中流の鮎釣り開
催場所まで、バスで連れて行ってくれるので大
変ありがたく、また気分も盛り上がります。

開会式と鮎の友釣りの説明

この日は好天に恵まれ、釣り日和でした。川
原に到着したら準備して開会式。

うちの子に限らず、子どもたちは待ちきれず
に川に入りたくてうずうずしている様子。

開会式では鮎の習性を利用した友釣りとい
う釣りの方法をわかりやすく説明していただき、
清流でないと鮎が棲めないということで、興津
川が大変貴重な清流であり、後生に伝えてい
くべきであることを強く思いました。

さて、待ちに待った釣りの開始です！

水面がキラキラしてとても美しく、川の水は
冷たくとても気持ちがいいです。

鮎のいそうな岩のそば、色々試行錯誤してみ
ましたが、残念ながら私たちグループは鮎を釣
上げられることはできませんでした。

それでも子どもにとっては大変貴重で楽しい
経験となったようです。

他の川のそばを車で走ると、この川に鮎はい
るか、と聞いてきて鮎釣りセミナーはとても楽
しかったと何度も話してくれます。

また鮎の友釣りはとても難しく、鮎が釣れる



今日は鮎が釣れるといいな！



までには時間がかかり子どもは飽きてしまいが
ちですが、スタッフの方が他の川魚の釣り方を
教えてくださったりしてそれは楽しく過ごさせ
てもらいました。

お昼のお楽しみは鮎の塩焼き

お昼になるとこれまたお楽しみのお鮎の塩焼
きをスタッフの方たちが用意してくださってい
ました。

炭火でじっくり焼いた塩焼きは他では味わえ
ないものです。

興津川の川原、周りは山に囲まれ、この自然
の中でいただくということもスパイスとなり、
余計に美味しく感じられます。少しだけれどお
かわりがあるよ、というスタッフの方の声かけ
に僕も、私も、と子どもたちの声がひときわ大
きくなっている様子でした。



お昼は、おいしい鮎の塩焼きでお弁当！

午後は川遊びです。

大きなイカダをスタッフが引っ張ってくれ
て、うちの子はそれが大のお気に入り。

少し気温が低いように感じましたが、子どもたちには関係ないようで、元気いっぱい川遊びを堪能していました。

川遊びも終わりの時間に近づくとスイカを用意してくれてあり、子どもも大人も大喜び。

めいっぱい遊んだあとのスイカの甘く美味しいこと。川の中で冷やしたスイカは、心地いい冷たさでした。



午後はイカダに乗って楽しい水遊び！

水の綺麗な興津川を大切に

そしてこれはまったくの余談ですが、息子が夏休みの宿題として興津川でアユ釣りをした絵を描いて提出しました。残念ながら受賞はしませんでした。市民ギャラリーに飾っていただき、彼にとってとてもいい思い出になったようです。

また来年も是非参加したいと思うとともにこの綺麗な興津川を後世に残していかなくはないと強く思いました。



鮎釣りの絵を描きました



参加者全員で記念撮影！鮎が釣れた人、釣れなかった人それぞれみんな清流の興津川で楽しく1日を過ごしました

「川のセミナー」

～「川のセミナーに参加して」～

東海大学教養学部人間環境学科 岡本和也

今回、指導教員の北野先生と一緒に学生12名で2016年8月27日に開催された興津川保全市民会議の川のセミナーに参加させていただきました。(写真1)



写真1 北野研究室の学生たち

「川で生き物さがし」

午前中は参加した子供たちと一緒に、興津川中流の承元寺周辺と上流の黒川で、たも網を駆使しながら水生生物を採集しました。私たちは神奈川県平塚市にある金目川でも毎年同様の観察会を行っています。この金目川は以前よりもきれいになったということですが、興津川はその金目川よりもさらにきれいな川だと感じました。また、自然がなくなってきている神奈川に住む子供たちよりも、観察会に参加した子供たちは積極的に動き、川や生き物に慣れている様子が見て取れました。

川では神奈川には分布しないカワヨシノボリやアマゴ、タカハヤを観察することができ、神

奈川と静岡では生息している生き物が異なっていることを改めて実感しました。

また、参加した子供たちが採集した生き物の名前に詳しいことに驚きました。(写真2~5)



写真3 積極的に採集する子供たち



写真4 神奈川では見ることができないアマゴ



写真2 参加者と一緒に生き物採取



写真5 採取した生き物の種類の確認と解説

「初めての流しそうめん」

午前の最後に、和田島少年自然の家の芝生広場で毎年恒例の流しそうめんをして楽しみました。流しそうめんを初めてやるという子が多く見受けられ、そうめん以外にもフルーツが流れてくるなど、とても大好評でした。私たちも子供たちと一緒に美味しくいただきました。(写真6)

「先生方による講義」



写真6 学生も子供たちも楽しんだ流しそうめん

午後は、静岡市清水和田島少年自然の家で講義です。

まず北野先生から、午前中に捕まえた生き物が紹介され、中流と上流では採集できる生き物が異なっていたこと、また、川にいる生き物の中には一生川で生活するものばかりでなく、海や陸でも生活し、再び川に戻ってくる生き物がいるという説明があり、川を守っていくためには、森や海も守っていく必要があるというお話がありました。

続いて永井先生から、魚によって歯の形状が異なっているお話があり、普段見ることのできないアユとハゼの歯を顕微鏡で拡大してみる等、私たち自身も川のセミナーでなければできない貴重な体験をさせていただきました。(写真7～8)

「川のセミナーを通して」



写真7 永井先生の授業「魚は何を食べているのかな？」



写真8 アユとハゼの歯の違いを顕微鏡で観察

川のセミナーでは、普段の生活では接する機会が減ってしまった自然や生き物と触れ合うことのできる貴重な体験ができると感じました。

子供たちも自然の中で生き物を探し、触れ合い、その生き物について知ることが楽しいと話していました。私も川のセミナーで得た知識や経験をこれからの活動に活かしていきたいと考えています。また、機会があればプライベートで興津川に来たいと思います。これからも、自然や生き物に触れあう貴重な場を増やし、多くの人に自然の大切さを感じてほしいと感じる1日でした。(写真9)



写真9 川のセミナー終了認定証の授与

速水林業と清流銚子川 視察レポート

株式会社ソマウッド 興津川保全市民会議 内野一輝

速水林業と銚子川を視察

市民会議では、三重県の先進的な林業に取り組んでいる速水林業と清流銚子川に一泊二日の視察に行ってきました。

速水林業の取り組みについて

三重県の南部の紀北町にある速水林業の視察では、社長の代表の速水亨代表からお話を聞き現地を案内していただきました。(速水林業では)「昭和30年代より経営基盤として林道網を整備し、高性能機械の導入、技術の向上を図り、搬出コストの低減を進めてきた。伝統的な手法にとらわれることなく、目的のための最適な作業を心掛け、可能な限りの省力に努めている」という。これは速水林業全体の色を、最も的確に表現している考え方だと思う。

ブランド：“尾鷲ヒノキ”をつくるための、緻密な努力をされている速水さん。今回、私が最も印象に残ったのは、主にこの二点です。

①科学的理論に基づく施業の実施、計画

まず、日本では平均的に降雨量が多いことから、下草を維持することが森の管理には重要だとし、同時に常緑の広葉樹も誘導育成し、動物も暮らせる森を作っている。ただ、「アレロパシー」という物質を出すコナラなどは、他の植物をよせつけないので、土砂流出を誘発するとの見地から、ただ「広葉樹も一緒に」という淡泊な考えでは実施していない。

また、モザイク状の林分の共存を図るという点にも驚かされた。たとえば20年生の広葉樹林、50年生のヒノキ林、80年生のスギ林などを、林縁を挟んでモザイク状に配置することにより、植物の多様性を生んでいる。その考えから、林道の密度を考え、その長さを50m/haと算出し、実際に採用。これが、肥沃な土壌の管理、ひいては優良で高品質な材の育成に繋がっている。

②金銭、労働力の両面における徹底的なコスト削減

上記の理論を基礎に、綿密な施業計画を立て、それぞれの作業に必要な人工を計算し、従業員

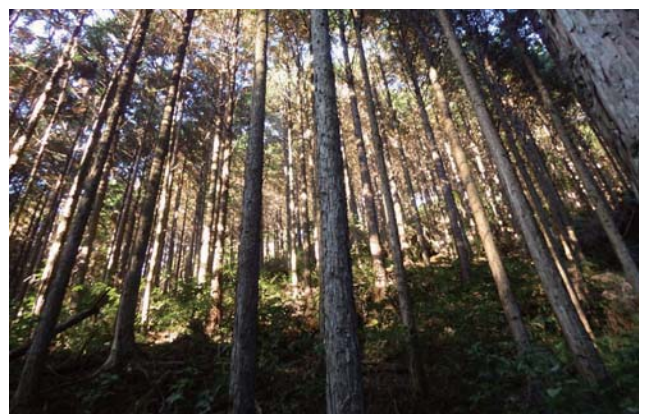
数を20人と制限している点にも驚いた。また、カキの養殖に用いるという細いヒノキの剥皮をアルバイトに担当させることにより、軽作業の遂行と人件費の削減を同時に実現している。



カキの養殖用のヒノキ材

また、速水亨代表考案の改造重機の積極的導入、「枝打ちは一回のみ=選木の必要なし」、「腐り木は放置」などの多彩なアイデアで、会社全体の省力も行っている。苗も、大幅に低コストな自作もので、社員から会社が買い上げる仕組み。普通にやっていたら経営が続かないとの観点があるためか、目標を実現するためには新しい手法もどんどん採用していると感じた。

ソマウッドとは違い、山林を所有しているからこそ実現できていると考えられる点も多いが、端的に言えば「こういう山林の管理の仕方もあるのか」と、同じ森林業者としてとても参考になった。



計画的施業による、光の入る森林づくり

鈴木 嗣人

「今日は昨日と変わったことを、明日は今日とは異なったことをやってみる。」

今回、興津川保全市民会議の研修旅行先、三重県は速水林業さんから頂いた、会社概要資料の冒頭に書かれていた文面です。「当たり前！」っと思いがちな言葉ですが、実際に考えて行動している人は中々いないと思います。「常に向上心がある事業体なんだ！」っと、冒頭から引き込まれました。

私も林業従事者なので、当然、F S C 認証を受けた速水林業さんの事は知っていましたが、今回実際に見学出来る機会を戴きありがとうございます。案内は代表の速水社長！経営概念は当然ですが、自然災害、森林管理の理念もしっかりと考えており、現地視察時にも、小さな発言にも耳を傾けていました。案内された森林は植林する段階で、収穫までの事を考えた山作りをしており、山の管理だけではなく精通する川のことまで考えた理念には、個人的な共感を得ました。

良い森林管理は良い山を作り、良い水質環境を作る。そんな素晴らしい環境を興津川流域にも作り、守っていきたいです。



視察参加者

堀出 斉翠

今回の視察研修でF S C 認証林を体感させてもらえる事が出来てとても感動しました。

視察研修で印象に残った事は、多様な林況をモザイク状に配置されていた事、四百年の森を育てる事、議論の存在する現場、造材は一人が担当することで材を揃える。手造材で年間四千㎡。立木の八十パーセントを材として出荷していること・・・、と上げていけばきりが無いほど速水さんのお話は刺激的でした。

速水林業の森林管理の理念の中に「研究者も行政者も林業家も全て生あるものに畏敬の念を持って接する事を忘れない」とありました。

全てがうまく交差し絡み合えば日本の林業の未来も明るく、大きく言えば日本の国土の保全にも繋がっていくのではないかと強く感じました。

銚子川視察レポート

速水林業を後に向かった銚子川は驚くほどに透明度が高く美しい川でした。

年間の降水量が多い事、源流部の標高千六百メートルの大台ヶ原、そこから一気に約二十キロ、ほとんど山間部を流れ、人里にあっても人口が少ないため河口まで高い透明度のまま流れている。

銚子川のように、川をいつまでも綺麗なまま後世に残していけるよう、できる事があればたずさわっていききたいと思います。

このような機会に参加させて頂き感謝しております。ありがとうございました。



銚子川と源流部の大台ヶ原についての説明を聞く

「サイエンスピクニック 2017」への参加

2月27日（土）、28日（日）に静岡科学館
る・く・るで開催された「サイエンスピクニッ
ク 2017」に本年も参加しました。

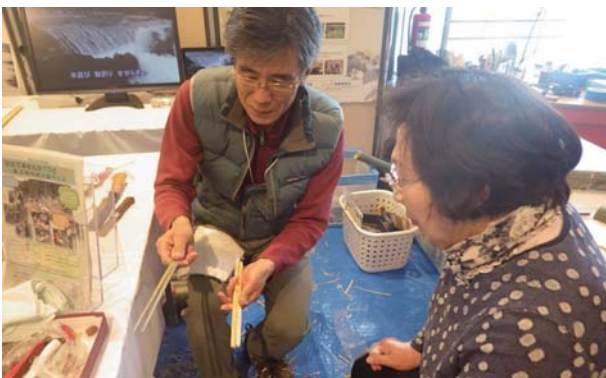
多様な参加団体

参加団体（出展者）は天体、海洋、生物、自然などの多様な分野で、それぞれの出展ブースでは、活動の様子をパネルで紹介したり、実験をした成果を映像で説明していました。

山の材料で制作体験

興津川保全市民会議のブースでは、参加者と一緒に山の竹や木を用いて、物作りを楽しむ企画にしました。

糠谷さんが竹とんぼ、佐藤さんが黒もじの爪楊枝、白井さんが竹の箸、松永さんがドングリのこま、望月委員長が竹の花瓶づくりなどを指導し、参加者と楽しく創りました。



白井事業委員の割り箸作り体験

水質、鮎の保全活動に関心

11月10日に大分県の日田市議会水資源対策特別委員会が興津川保全市民会議の活動の様子を学びたいとして、行政視察にられました。

市民会議からは、望月事業委員長と森口事務局長と環境創造課職員が出席しました。最初に静岡市の紹介と市民会議の発足からこれまでの活動をビデオにて紹介しました。

質疑応答では、興津川保全条例に関する事、下水道及び合併浄化槽に関する事、興津川クリーン作戦の継続と成果について、取水堰を改良して鮎が上りやすい川づくりの進捗状況などについて聞かれました。特に関心のあった興津川保全条例に関する内容については、森口事務局長が、当時条例制定に関わっていたことからより詳しく紹介することが出来ました。また、日田市は鮎の川で知られる筑後川の上流部に位置することから鮎の保全にも関心が持たれました。



興津川保全市民会議の活動紹介

興津川保全市民会議の会員になり、「命の水」を守るため、一緒に活動してください。

法人、団体等会員 3,000 円 / 年
個人会員 1,000 円 / 年

会員へは、「やませみ通信」他、年間を通じて各種イベント、企画の案内を送らせていただきます。
また、清流のうたのCDなども特別価格にて提供します。

発行 興津川保全市民会議
編集 興津川保全市民会議 事業委員会
編集以外 (株) 地域デザイン研究所 (望月)
発行日 平成 29 年 3 月

興津川保全市民会議事務局

(静岡市環境創造課内)

TEL. 054-221-1319

FAX. 054-221-1492

〒420-8602 静岡市葵区追手町 5-1



ホームページもご覧下さい <http://www.okitsu-yamasemi.net/>

編集委員からひとこと・・・



平成 28 年度の市民の森づくりの植林体験と竹の子掘りには、多くの参加者があり、沢山の竹の子掘りができました。市民会議では、子どもの時に自然の中で楽しく遊び、普段できない体験をしてほしいと考えています。来年度も良い天気の下、多くの人に参加してほしいですね。